

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル **No. 102**

SABS Journal No. 102

発行日：2018年9月23日

URL：<http://sabsnpo.org>

このジャーナルはもともとバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）会員向けのものでしたが、少しでもバイオテクノロジーにご関心のありそうな方々にも配信しています。ご興味の無い方はこのメールに返信して配信無用の旨をお知らせください。

SABS ジャーナルでは、故奥山典生都立大名誉教授が毎回様々な分野にわたり、溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継ぎ協会を続け発展させて行くため、毎月の定例会を継続し、いろいろな方々がそれぞれ専門の話題を提供し話合っ、親睦と勉強を深め、当会の活動の一助となるよう努めて参りました。

現在、このジャーナルを読んで下さる方々は数百名に上ります。ぜひ読者の中から話題提供をして下さる方が出てきて頂けることをお待ちしております。このメールに返信して頂ければ幸いです。ご感想、エッセイなどのご投稿も大歓迎です。連絡先は thiyama@athena.ocn.ne.jp です。なお「医学と生物学」誌の復刊準備もあり当会のホームページが昨年末一新されました。ぜひ <http://sabsnpo.org/index2.htm> でアクセスしてご覧ください。

長い夏休みを頂き、久し振りのジャーナルをお届け致します。今年の夏は全く異常な暑さ、それも長期間続きましたが、皆さま如何お過ごしだったでしょうか。6月後半に梅雨が明けてしまうと直ぐ猛暑が始まり、9月初めまでの長い間、35度を超す日々が続いたあと、この数日は20度を切ったりして、すっかり過ごし易くなりました。涼しく快適になると「のど元過ぎれば熱さ忘れる」で、ともすると暑さの日々を忘れてしまうのは、人間の知恵の一つかもしれません。「いつまでも過去にこだわるな」と先日亡くなった異色名女優が言って居られたようですが、立派な人生観ではあります。とは言え医学的には“熱い”ものを無理に飲んだり食べたりを繰り返すと喉頭や食道のガン誘発につながるとのこと。“暑い”気候も繰り返し体験すると慣れるかもしれませんが、健康には良くないはず。地球の健康には間違いなく良くなって、今年は猛烈な台風がいくつも発生し“これまでに経験したことの無いような”激風やら激雨やらがこの国を襲いました。思えば今年は春が非常に早く終わって4月に入ると初夏みたいになり夏日まである騒ぎ。そして5月には盛夏みたいな日々が続いた後は短い空梅雨ともいえるものの後、猛暑に突入してしまったのです。

世界中が経験しつつあるこの気候変動の原因の一つは間違いなくCO₂濃度の上昇による温室効果だろうと思います。温室効果と言えば、“あれはFake news”だと言っているあの米国大統領、今はいよいよ危うくなりつつある自らの足元を固めるため人気取りとして、中

国からの輸入品に高率な関税をかけるという暴挙で大変な貿易摩擦を起こしたり、北朝鮮と先行きの分からない取引したり、そちらの方に忙しい様ですが、米国が Paris 協定から抜け出してしまったのは既成事実で早くその誤りに気付きもとに戻って欲しいものです。来年の夏はどうなるのでしょうか。そしてその次の年は東京でオリンピックです。今夏の暑さが続いたらどうなるか。

さて奥山先生懸案の「医学と生物学」復刊準備は遅れていましたがどうやら9月中に復刊第1号を発行出来そうです。夏休み中には、横浜市大の川崎博史先生を中心に2回の編集会議とそれら会議の前後には頻繁なメールのやりとりで形が整いつつあります。

この雑誌の扱う分野は1942年の第1巻から非常に幅広く医学と生物学に関係するあらゆる分野が含まれていて、2013年の最終号では、看護学、老人医学、リハビリ関係、小児科、心理学・精神科、栄養学・食品、薬学関係、臨床医学、解剖学、動物学、生理学、保健予防医学、医学教育、細胞生理学、植物学、歯科、皮膚科、免疫学、臨床検査、環境などなど非常に幅広い分野を網羅していました。復刊誌は、旧「医学と生物学」と同様に医学中央雑誌に登録し、投稿原稿は受付してから2週間以内に査読を完了し受理の可否を投稿者に伝え、また原則として受理した投稿論文は受理から1カ月以内に掲載するつもりです。総説、エッセイなども歓迎です。国際的に認められていた速報誌の復刊ですので、このニュースレターをお読みの皆さまにもぜひご投稿頂きたくよろしくお願ひいたします。

さて前回の定例会では話題提供を奥山先生とも親交があり当ジャーナルの永年の読者でもある久本泰秀さんに「機器開発・分析—50年の経験を中心に」という題でお願ひしました。北大理学部物理学卒業後、日立製作所に入社、那珂工場でGC-MS（ガスクロマト/質量分析計）の開発に従事。超エルエスアイ研究所で半導体用機器開発、応用技術部、ME事業推進部で医療用機器（MRIなど）開発、また社外では分析機器工業会などで活躍、環境分析、食品分析応用技術発、海外事業開発などに従事。定年退職後、JICA 専門家としてインドネシア環境管理センターにて環境分析指導。国立環境研究所フェローとして、神栖町ヒ素汚染対策プロジェクトに参画。現在は、エーアイサービス有限会社代表として、インドネシアなどの東南アジアで分析機器関係の仕事をおられます。最近インドネシアで開かれた分析機器の見本市の話では、日本のメーカーの影がドイツなどのヨーロッパ勢に比べて最近薄くなっていることや、中国の存在感が増しつつあるなど憂慮すべき動向があるとの事でした。さらに環境計量、環境分析、食品分析関連コンサルタントなど幅広く活躍して居られ、また当会の田坂理事（経済産業省OB）とは標準化関係でも繋がりが深く関連のお話で盛り上がりました。とても幅広い永年のお話、あまりに盛り沢山で時間が足りず近いうちにまたお話を伺いたいということになりました。

次回はこれまで何回か‘緑の香り’のお話をお願いした山口大学名誉教授畑中顕和先生の

お話です。先生は今年 87 歳になられますが大変お元気です。この夏英国ケンブリッジ大学で開かれた第三回国際ピレトリンシンポジウム (The 3rd International Symposium on Pyrethrum) で Pyrethrin with “Green Odor”--Pyrethrin Biosynthesis induced by Green Odor という題で招待講演をされ、先日帰国されました。今回はそのお土産話をされます。ご期待ください。

バイオテクノロジー標準化支援協会 第 93 回 定例会

日 時：2018 年 9 月 28 日 (金) 14 時 00 分 - 16 時 00 分*

場 所：八雲クラブ (首都大学東京/旧都立大同窓会)

(渋谷区宇田川町 1 2-3 ニュー渋谷コーポラス 10 階)

話 題：「第三回国際ピレトリンシンポジウム」

提 供：山口大学名誉教授 畑中顕和先生

*定例会はどなたでも参加できます。皆さまのご参加をお待ちしています。

定例会会場八雲クラブへの道順

渋谷駅ハチ公交差点から井の頭通りの坂道を東急ハングルの看板目指して上り、ハンズの建物を過ぎ交差点角を右に回って直ぐまた右に曲がるとハンズ搬入口になります。そのすぐ隣の建物がニュー渋谷コーポラスで、入口奥のエレベーターで 10 階に上って直ぐ左隣の部屋です。

定例会は原則として毎月第 4 金曜日 14:00-16:00 に八雲クラブで開いています。例外として 7 月、8 月および 11 月はお休み。12 月は第 1 金曜日に忘年会を兼ねて行います。会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言出来ます。友人同士お誘い合わせでご出席ください。

このジャーナルは現在檜山が毎回拙文を執筆していますが、ぜひいろいろな方々にご投稿頂ければと思っております。内容・字数は自由です。また定例会での話題提供も大歓迎です。時間は 2 時間程度ですが短くても長くても (その場合は 2 回以上に分けますが) また内容も自由です。ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

ホームページ<<http://www.sabsnpo.org>>をご覧ください。本メールジャーナルのバックナンバーが収録してあります。

① 配信停止・中止希望は下記アドレスにメールにてその旨お知らせください。

② 配信先等の登録情報変更は メールにてその旨お知らせください。

- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録をご希望の方はメール下さい。
- ④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

(NPO) バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail: thiyama@athena.ocn.ne.jp

URL: <http://www.sabsnpo.org>

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹
